

令和元年度（第1回）久留米市食料・農業・農村政策審議会 議事録

日 時：令和元年5月9日（金）

場 所：職員会館メルクス 3階 大会議室

出席者：福田会長、吉永副会長、仁田原委員、白石委員、小坪委員、吉田委員、野村委員、馬場委員、中村委員、田中委員、溝上委員、稲吉委員、市川委員、森永委員、高良委員、矢次委員、高尾委員、半田委員

以上 18 名

（欠席者：永松委員）

事務局：農政部 山口部長、山手次長、農政部農政課 堤課長、林田主幹、田川課長補佐、松延主査、長野、生産流通課 角課長、みどりの里づくり推進課 古賀課長、植田主幹、農村整備課 田中課長、松尾主幹、中央卸売市場 中山市場長、田主丸総合支所産業振興課 井上課長、北野総合支所産業振興課 小坪課長、城島総合支所産業振興課 大坪課長、三潞総合支所産業振興課 塩足課長

傍聴者：なし

次 第：開会

1. 市長挨拶
2. 委嘱状の交付
3. 会長・副会長の選任
4. 市長からの諮問
5. 会長・副会長挨拶及び自己紹介
6. 第2期基本計画の進捗状況
 - (1) 第2期基本計画の概要について
 - (2) 平成30年度実績及び令和元年度計画について
7. 第3期基本計画の策定
 - (1) 策定の考え方
 - (2) 策定スケジュール
8. 情報提供（委員及び事務局から）

開会

1. 市長挨拶

2. 委嘱状の交付

大久保市長	挨拶及び委嘱状の交付
-------	------------

3. 会長・副会長の選任

事務局	事務局案	・会長 福田委員
		・副会長 吉永委員 全員一致で可決

4. 市長からの諮問

大久保市長	審議会に対し諮問
-------	----------

5. 会長・副会長挨拶

福田会長 吉永副会長	自己紹介及び挨拶
---------------	----------

6. 第2期基本計画の進捗状況

事務局	<p>【配布資料 第2期基本計画の概要 説明】</p> <p>【配布資料 平成30年度実績及び令和元年度計画について 説明】</p>
A委員	集落営農組織の法人化が進んでいない状況について、原因を教えて欲しい。
事務局	大規模な集落営農組織は殆ど法人化しているが、小規模な集落営農組織は、経営規模や担い手確保など課題があるため、法人化が進んでいない。しかし、法人化の検討をしたいと意向を示している団体は7団体ある。
A委員	新しい取組みをしないと法人化が進まないと思うがいかか。
事務局	新たな取り組みとして、平成30年度から小規模営農組織同士の合併や既存の法人への統合など、大規模化への支援を行っている。また、法人化前後の研修や補助金などの支援も行っている。
B委員	先日、集落で減反の調査があったが、米の生産調整は、どのような基準で行われているのか。また、調整されて少なくなっても米を作りたいといわれた場合はできるのか。
事務局	<p>国による米の生産調整については廃止されたが、県で目標配分面積（水稲作付ガイドライン）の設定があり、これまでと変わらず、市町村毎に面積が割り振られている。JAや農事組合を通じて、水稲作付けガイドラインを守ってもらうようお願いしており、それでも米をたくさん作りたい方は、JA等に相談し調整をしている。</p> <p>水田農業推進協議会からは、確認野帳を配布しているので、米の作付けの増減を希望する方は、野帳に記入し、面積の調整をしている。</p>
C委員	<p>GAP推進事業の予算が75万円だが、特にGGAPの取得には多額の費用がかかると聞いている。この予算でどのように推進しているのか。</p> <p>また、学童農園設置事業について、46校中39校が実施しているが、実施できていない7校の理由は何か。</p>
事務局	<p>GAP推進事業は、平成30年度から実施しており、国・県の補助事業の対象外となっている水質検査や土壌検査などを補助対象としている。</p> <p>学童農園設置事業について、周りに田植えに適した農地がない、周りに農地がない、農地の提供者等がないなどが実施できていない大きな要因となっている。また、小学校のカリキュラムの関係で、学童農園の取組むことが難しいなどの理由もあがっている。</p> <p>平成30年度から、近郊に農地がない場合は、面積要件を緩和し、バケツを利用した稲作も補助の対象としており、各地の青年部より小学校へ働きか</p>

	<p>けている。</p>
D委員	<p>対象農地がない小学校には、バケツ苗事業を勧めているが、市からも小学校に勧めてほしい。また、すでに農地で実施している小学校には引き続き水田での田植を勧めてほしい。</p> <p>その結果、多くの子どもたちが農業に触れ合う機会が増えると考えている。</p>
事務局	<p>市としても、教育部と連携して、校長会の中で提言していきたい。</p> <p>バケツ苗事業は、農地の確保が出来ない小学校が条件となる。</p>
E委員	<p>次世代の担い手の確保と育成については、様々な団体や組織の会合の中でも担い手の話題が出ており、青色申告会でも重要な課題と認識している。</p> <p>青色申告会では、2年前から申告書を利用した経営診断を行っている。青年農業者や新規就農者には、安定した経営をするためにも青色申告会を利用してもらいたいと考えている。</p> <p>若手の農業後継者には、経営状況を把握していない者が多く、後を継ぐとなった時に、経営状況を見て驚く者もいる。今後は担い手の税務研修を実施しようと考えている。</p> <p>補助金をあてにした経営ではなく、持続性がある農業が実現できるような農業者の育成も、各団体で考えていく必要があると考えている。</p>
F委員	<p>雇用型農業の推進について、園芸農業では、大規模経営で法人化している方がたくさんいる。県として、今までは集落営農の法人化に力を入れてきたが、今後は、雇用型農業の推進というより園芸農業の法人化の推進を考えている。</p> <p>昨年度県では、園芸農業法人を多数集め農業法人ネットワークを立ち上げた。久留米市内の法人が中心になってくるので、今後は市と一緒に推進したいと考えている。また 15 ページの次世代リーダー事業で育成した若手の農業者が法人化して経営を発展させ、様々な施策に繋げていくとよいと考える。</p> <p>集落営農の法人化の推進は引続き実施するが、経営強化が今後の大きな課題となる。モデルの農業法人を定めて、ヒアリングをしながら個別の計画策定や経営・普及指導を市と一緒にしていきたいと考えている。</p>
G委員	<p>学生の頃、県外で青年就農給付金の準備型の給付を受けており、その後、久留米市で経営開始型を受けようとしたが、提出書類や要件が全国農業会議所に聞いていたものと違っていた。全国的に統一できないものか。</p>
事務局	<p>農業次世代人材投資資金（旧青年等就農給付金）は、平成 24 年度に開始した国の事業であるが、毎年のように要件が改正されている。国の会計検査が入るたびに、要件が追加されてきた。そのため、申請する年度によって要件が異なっているし、要件の解釈が違ってくこともある。要件を満たさなければ資金・給付金の返還になるため、全国的に返還のケースも出ているので、そうならないよう、厳格に対応させていただいている。</p>
H委員	<p>雇用農業の推進について、規模を拡大したが雇用できる人がいないなど、労働力の確保が大きな問題である。</p> <p>マッチングセンター等に依頼をするが集まらないし、現在の雇用希望者が</p>

	<p>どのくらいいるのか、現状も分からない。</p> <p>雇用先をあっせんできるような取り組みはできないだろうか。</p>
事務局	<p>雇用者の確保は、他の農業者からも同じような意見をいただいている。ハローワークで募集しても人が集まらないし、来ても長続きしないという話も聞いている。</p> <p>現在、県のマッチングセンターでも、雇用就農希望者と農業法人等との職業斡旋を実施しているが、数件のマッチングしかないなど、なかなか難しい状況である。</p> <p>次の第3期計画でも労働力確保の問題は、大きな議論になると思っている。審議会の中でもしっかり議論していきたいと考えている。</p>
C委員	<p>外国人労働者の受入れについて、管理団体が必要だが、現在JAでは管理団体が出来ないかと協議している。JAくるめ管内の農業者も多く外国人労働者を既に受け入れているので、研修会だけでなく、JAと関連団体、行政と一緒に管理団体を設立したいと考えているので、市でも検討をお願いしたい。</p>
福田会長	<p>ご意見を、要望として受けたい。</p>
事務局	<p>【基本施策Ⅲ：事務局説明】</p>
I委員	<p>プロモーション動画を使ったCMの効果について教えてほしい。</p> <p>また、木や花を植えない住宅が増えているので、花木の需要を増やす取組について伺いたい。</p>
事務局	<p>昨年12月～2月までの3ヶ月間、テレビCMとラジオCMを流し、大変反響があった。</p> <p>また、YouTubeにもアップし、別のTV局でも取り上げられるなど、多いときでYouTube再生回数は、1日400件になったときもあった。具体的な効果については、今後検証していきたい。</p>
事務局	<p>緑花木の推進については、様々なイベントを通じて魅力を発信しており、市内外にも出向いて、つつじ・つばき等のPRを行っている。</p> <p>今後も、PRの充実を図りながら、勧めていきたい。</p>
B委員	<p>昨年より、民泊の受入れを始めた。子どもたちを土で遊ばせたり、駆け回ったりしている若い世代の夫婦もおり、感心しながら、受入れを楽しんでいる。現在の受け入れは、田主丸地域だけなので、いずれは久留米全域で取組めればと思っている。</p> <p>受入側の仲間を増やしたいが、なかなか増えない。受入側の講習会などがあれば、もっと増やせると思う。</p> <p>民泊は、農作物の生産だけでなく、人との触れ合いという副産物があり、そのようなこともPRしてほしい。</p> <p>耕作放棄地について、何年も荒廃したままの農地がある。解消するアイデアはあるが、どこに相談したらよいか分からないため、教えてほしい。</p>
福田会長	<p>これからの課題なので、検討していきたい。</p>

事務局	現在、民泊に取り組まれている農家は全て田主丸地域であるが、将来的には、久留米全域に広げていくこともありうる。また、くる農の参加者も年々増えている中で、くる農と民泊をマッチングさせることも考えていきたい。
E 委員	耕作放棄地の件について、昨年、耕作放棄地解消の取組で JA 青年部が全国大会に出場した。その取組を実施した山本・草野地域には、他地域からの視察が増えていると聞く。耕作放棄地を開墾してそばの生産をするという取組で解消を進めている。久大線からそばの白い花畑がみえるという景観を耳納北麓の観光名所にするために、生産との連携をとりながら取り組んでほしい。そばの生産で相乗効果が出ているので、この機会を生かして、視察が増えれば日本農業賞も夢ではない。青年部には是非とも頑張ってもらいたい。
福田会長	こちらもちの課題なので、検討していきたい。
J 委員	みどりの里づくり推進機構の目的は、久留米市と東部地域の団体等と連携しながら、農業の発展、つつじをはじめとする緑花木の生産振興、みどりの里づくり事業等を通して、耳納北麓地域一帯の活性化に寄与することである。 機構では、所管する「世界つつじセンター」と、指定管理を受けている「ふれあい農業公園」、「道の駅くるめ」の適正な管理運営を行うことで、都市住民・農村・生産者との交流を通して、農業への理解促進を図っている。 今後も、これらの施設を活用して、農業情報の効果的な発信に、取り組んでいきたいので、行政だけでなく、農業関係団体の皆様にもこれらの施設を是非活用していただきたい。
I 委員	先日、インバウンド専門の旅行業者、web プロデューサーと外国人スタッフの方々と話をしたが、今後は小旅行が主流になるらしい。インバウンドで来られた外国人を情報発信の部分で活用しながら、もっと多くの人々に久留米に来てもらうために協力をしていきたい。

7. 第3期基本計画の策定

事務局	(1) 策定の考え方 (2) 策定スケジュール 説明
-----	-------------------------------